

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 17 No 03

200号

平成22年 3月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

クリニックNEWS 200号を迎えて！

院長

今月で、かわむらこどもクリニックNEWSが、お陰様で200号を迎えることが出来ました。思い起こせば、今から17年前2月20日に、当院は開業しました。茨城県の日立総合病院から、突然落下傘のように仙台に降りてきました。開業当初は、本当にやっていけるのか不安な毎日でした。開業理念として「お母さんの不安・心配の解消」を掲げ、理念倒れにならないように、様々な子育て支援活動を続けてきました。理念の実践として、最初に取り組んだのがクリニックNEWSです。小学校の壁新聞以来携わったことの無い新聞作りは、思った以上に大変でした。試行錯誤を繰り返し、創刊号の発行には数ヶ月を費やしたことも、今は懐かしく思い出されます。新聞が読まれていない不安や忙しさも手伝って、何度も途中で挫折しそうにもなりました。それを支えていたのが開業理念と読者の励まし声です。この院内報を続けられたことが、その後の多くの活動の原点になりました。

院内報の発行は理念を形にするためのひとつの方法で、親御さんに医学的な情報や知識を伝えることが目的でした。しかし、振り返ってみると、単なる情報提供だけではなく、院内報自体がクリニックの歴史を示しています。病気の入院や骨折等院長の個人的なもの以外に、社会における様々な出来事や事件が記事として載っています。あんな時、こんなことがあったんだと、様々なことが思い出されます。クリニックだけではなく、院長の自分史としても、院内報の存在意義は大きいと感じています。

平成16年に発行した100号記念誌にも書きましたが、「継続は力なり」です。しかし、発行を継続するためのモチベーションは、新聞を読んでいるお母さん達の熱い思いです。200号まで続けられたのは、院長個人の力だけではなく、スタッフ、そして多くの愛読者に支えられたお陰です。今回も、多くのお母さんから、記念紙に投稿をいただきました。本当に、ありがとうございます。これからも、力の限り続けていきたいと思っています。

3月のお知らせ

・臨時休診

3月6日(土) 外来小児学会役員会(下関)参加のため休診となります。

・栄養育児相談 毎週水曜日



200号おめでとうございます！

衆議院議員 郡 和子

1996年、川村先生がクリニックを開業された次の年、県の「すこやか家庭教育相談事業」でテレビ部門企画運営委員としてご一緒させていただいたのが先生との出会いでした。番組の企画を練ってコメンテーターとしてご出演頂いただけでなく、地方へ外向き講演会や相談会も行いましたが、いつでもどこでも、こども達のすこやかな発達・発育に役立つようにと保護者の皆さんにわかりやすくお話下さって、私もどれ程心強かったかわかりません。診療のほか、夜中までかかって新聞を作り、またインターネットで相談に乗り、さらには子育てサークルも主宰なさるといふ、当時も、超スーパー小児科医！でありました。

今私は政治の世界に身を置いておりますが、放送局時代と同じように現場主義を貫きたい思いに変わりはありません。所属は厚生労働委員会。医療や介護や子育て支援、年金や労働など、いずれも生活に密着した問題を審議しているところです。ですから、小児科の現場、子育ての現場で、医師やお父さんお母さんが困っていること期待していることなど、私の“現場主義政策”立案の「知恵袋」の一人として、今なお、先生にお付き合いを続けて頂いていることに本当に感謝しております。

ところで、鳩山政権はこの1月29日、これまでの「少子化対策」ではなく「こども・子育てビジョン」を閣議決定しました。「子どもを大切に作る社会をつくりたい。子どもは社会の希望であり、未来の力。子どもの笑顔があふれる社会は個人の希望や夢を大切に作る社会です。だからこそ社会全体で子どもと子育てを応援していきたい。」と、総理の強い思いがビジョンの最初に掲げられました。例えば、現在1、23%の男性の育児休業取得率をH26年までに10%にするなど、数値目標を掲げて、取り組みが始まることになっています。意気地無しならぬ育児なしの男性が少なくなるよう、何より次代を担う子どもたちが健やかにたくましく育ち、子どもの笑顔があふれる社会のために私も力を尽くしたいと思っています。

最後に、川村先生が前号のNEWSでお書きになっていた髄膜炎を予防する小児Hibワクチンや肺炎球菌ワクチン、そして子宮頸がんを予防するワクチンなどが次々承認され、接種への公費負担を望む声が大きくなっています。予防医療の時代に入った日本で、これからはしっかり取り組ませて頂くつもりです。これからも、ためになる情報満載のクリニックNEWSを楽しみにしております。

患者さんからの言葉

今月号で『かわむらこどもクリニックニュース』も、無事200号を迎えることができました。ご愛読と応援ありがとうございます。200号記念紙の記事を募集したところ多くの方々から寄稿を頂きました。皆さんの思いをなるべく伝えるため、原則として原文のままとしました。なお、掲載は50音順にさせていただきました。本当にありがとうございました。

クリニックニュース200号おめでとうございます。子供が保育園の時はしょっちゅう溶連菌でお世話になり小学生の時は風邪ばかりひいて毎月のように親子でお世話になっていました。今では丈夫になり予防接種でお世話になるくらいですが、大きくなって1・2・3で注射をしてもらうのが安心のようです。お世話になることが減りましたが、私達親子を忘れないで下さい。これからも内容盛りだくさんのクリニックニュースを発行して下さい。 青葉区 安達 律子



大丈夫忘れませんよ！。中学生になったの予防接種で、1・2・3は恥ずかしいかも(笑)。お子さんが嫌がらない限り、いつまで通っても大丈夫ですよ。

200号おめでとうございます！浦安に転勤して2年になります。引越して、かわむら先生に会う事も無くなるかと…寂しく思っていました！。転勤先の小児科にかかり…納得いかない事や不安を感じる事などをセカンドオピニオン的にかわむら先生に質問していました(笑)。遠く離れても、掛かり付けの小児科医のかわむら先生です(°ω°;)。子供が三人年子の為…この10年以上、何回かわむら先生に診てもらったのか、数えきれませんね。でも4年間は郡山市、2年間は浦安市に住んでいました！実は、仙台に住んでいたのは半分の年数です(笑)なのに、掛かり付けの小児科は《かわむらこどもクリニック》です！。転勤する時、かわむら先生が言った言葉「子供は慣れるのが早いから、次の小児科の先生にもすぐ馴染むよ」どうでしょう？。いまだに、かわむら先生ならこう言えたのに…かわむら先生だったら、もっと違った…など、子供達は言いますよ！。根本的に注射をするから、子供は病院が嫌いです！。その中で、信頼できる小児科医を子供なりに見付けてるんですよ(笑)。私からすると、転勤先の小児科の先生はどれも優しい先生ばかりでした。よっぽど、かわむら先生の方が恐いと思います(笑)でも、優しいだけじゃない人情味のある(?)、かわむら先生が大好きな我が家です♪。書き出したら沢山書いてしまいそうなので…この辺で止めておきます(笑)。これからも、300号400号と続けてください！。春休みに仙台に引越す事になりました♪。また、お世話になります(^^)ノ騒がしい相沢年子三人を宜しくお願いします！ 浦安市 相沢 有美

そうですか？。子どもなりによい医者(?)を見つけてるんですね。「怖くてもいい先生」、ほんとうはそれが大事かも知れませんか！。仙台に戻るのですか、しっかり待ってますよ。また『お母さんクラブ』よろしくお祈りしま～す。

こんばんは。いつも大変お世話になっております、有倉慎一郎(いっちー)の母です。クリニックニュース200号、おめでとうございます！いつもクリニックニュースを楽しく(時には涙目になりながら)拝読させていただいています。Hibワクチンや新型インフルエンザ、新しい肺炎球菌ワクチンの予防接種についてなど、先生のところでいつも最新の情報を発信していただき、大変助かっています。というのも、私は日中は働いているため、日経新聞は読みますがそれ以外のメディア(TVなど)とは縁遠く、世の中の動きにとんと疎い一家になっているからです。特に、新型インフルエンザの予防接種の際には、先生をはじめスタッフの皆様が休日返上でご対応いただいていたことなど、記事を読むまでまったく気づかず、もちろん基礎疾患のないうちの子の接種順番が仙台では非常に早くに到来していたことなど、まったく知りませんでした！記事を読んだときには、本当に感謝の気持ちで一杯になり、メールを差し上げよう差し上げようと思いながら気づけばもう2月になってしまいました。本当にどうもありがとうございました！エピソードというほどのエピソードはないのですが、2歳になって急におしゃべりになった“いっちー”は、どうやら川村先生のところに行くのは結構楽しいようで、「かーむらちゃんちえのここ、行く！」とよく言っています。最近は寝る前に咳止めシールを張ってもらうのが楽しいらしく、シールは使い切ったし、そもそも咳も収まったのにシールを貼るまねをするまで寝ようとしません。また、「めぐすり！」と目薬を差してもらいたがるものの、実際に差そうとすると目をぎゅーっと固く閉じてしまうので、こじ開けようにもこじ開けられずまったく差せません。それでも本人は「めぐすり、さしたね！」と大喜びなので、楽しいようで、笑ってしまいます。保育園の送迎時にたまたま立ち話をしてかわむらこどもクリニックの存在を知ったのがきっかけですが、先生は愉快で分かりやすいし、スタッフの皆さんも非常に感じが良いので、本当にいい病院を紹介してもらってよかったな、としみじみ思っています。これからも引き続き長いお付き合いを宜しくお願いします！

青葉区 有倉 和世

新聞を愛読してくれて、時には涙目になりながらは、本当に嬉しいことです。新型インフルエンザワクチンのことも、全ては子ども達のためです。感謝してもらええることは、この新聞のよき理解者ですね。クリニックごっこしばらく続きそうですね。大変ですが、相手してあげてください。

クリニックニュース200号おめでとうございます。記憶では四歳の長女が8ヶ月くらいの時からお世話になっていました。まだ三年ちょっとですが、昨年9月に三人目が生まれ、また伺う機会も多くなりました。先生のところに辿り着くまで何ヶ所か別の病院にいったこともあったのですが、受診しても「で、うちの子は何なの？」という感じのまま帰宅することばかりで、どこか私が納得いく病院はないかと思っていたところ母から「ここにいってみたら」といわれたのが最初でした。かわむら先生はきちんとした説明ではっきりおしゃってくださいます。今までの先生とは違う！というのが第一印象でした。一番の思い出は長男が1歳4ヶ月の時に下痢が長く続き、水分だけで食事をほとんど取れない状態が2週間ほど続いたときがありました。そのとき職場や周りの人から「別の大きい病院に行かなくて大丈夫」といわれたりもしました



が、先生が少しでもよくなってきていて水分が取れていればいいから」という言葉を信じて通い続けつづけました。大腸菌による下痢、風邪、結局最後は水痘と三つも重なり回復まで約一ヶ月かかりました。最後は年末にかかってしまい「クリニックが休みになってしまう！！」という不安を抱えて受診すると、先生はちゃんと紹介状をお守りに持って行きなさいと渡してくださいました。その長男も2歳半になり今ではすこし鼻が出るとかわむら先生のところに行くといひます。時には厳しいお言葉もいただき少しめげること(*^_^*)ありますが・・・いまでは母子ともにかわむら先生のところに行けば大丈夫と思って毎日過ごしています。上の二人はだいぶ丈夫になりましたが、3番目が四月から保育所に行くようになるとまたしばらくは毎週お伺いすることになりそうです。今後ともよろしく願ひします。最後ですいません。スタッフのみなさんいつも笑顔でありがとうございます。 宮城野区 遠藤 優子

クリニックが休みだから、後は知りませんと言う訳にはいきません。休みの時のことも考えるのが、掛かり付けです。紹介状を使うことが無くても、持っているだけでも安心、それがお守りです。お守りの効果は、抜群です。子どもの病気が治るのは、親御さんが安心して通うことが一番と思っています。時には厳しさ、それも全て子どものためです。

クリニックニュース200号おめでとうござひます！！素晴らしいですね！！まさに「継続は力なり」で、毎月のニュース発行はクリニックのパワーとも言えますね。かわむらこどもクリニックとの出会いは、上の子が産まれたときに母からもらった川村先生の著書「小児科医がやさしく教える赤ちゃん・子どもの病気」です。とてもわかりやすく、初めての育児で何も分からず不安だらけだった私や夫にとってバイブルのようなものでした。幸運にも当時住んでいたアパートがクリニックのすぐ近くだったので、さっそく生後2ヶ月健診の際に訪ねたのでした。あれから早7年が経ちました。喘息と言われてほぼ毎週のように診ていただいていた長女は、年に1～2回しか熱を出さず、ほとんど風邪をひかない丈夫な子になりました。次女が産まれるときに太白区に引っ越したのですが、やっぱりかわむらクリニックが大好きで車で通っています。次女は長女に比べて生まれつき丈夫で、めったに受診しませんが、予防接種や健診の際は必ずお邪魔しています。私や長女と川村先生、中米・佐藤看護師、受付のフクチさんとは深い深い信頼関係ができているので、電話で声を聞いたり顔を見たりするだけで安心してしまふんですね。そんなわけで、これからもお世話になります！！5月下旬には三人目が産まれる予定ですので、また頻繁にお邪魔することになりそうです(^o^)/☆よろしく願ひいたしま～す。先生はじめスタッフの皆様方、体に気をつけて頑張ってください。



太白区 大竹 茜

そうですか、自分の著書がきっかけですか？。お母さんに感謝しなくちゃ（笑）。引っ越して遠くから通ってくれることは、本当にありがたいことです。そして嬉しいことは、スタッフと信頼関係ができていことです。これが理念であるクリニック全体としての「お母さんの不安・心配の解消」です。

新聞発行200号おめでとうござひます！！大野桃果、隼弥の母です。桃が初めて先生に診察してもらったのが産まれて三ヶ月目の時でした。その時の事は今でもハッキリと覚えています。休日当番でしたので、違う病院の当番でしたら先生に出会う事はなかったと思います！！私にとっては運命的な出会いでした。とにかく桃も隼弥も病院に通う事が多く、初めての子育ての桃の時は、何度も親としての自信を失いかけそうになる私を先生や看護婦さん達は助けてくださいました。出会ってから8年がたちますが、私は毎月の新聞などを読んで沢山の患者さんからの御礼のメールなどを読む度に、いつも、いつも感謝していることを私も伝えたいと願っていました。私の性格的なこともあるかもしれませんが「ほぼ毎月通院していながら、たいしたエピソードもなく(笑)突然メールで感謝の気持ちを伝えたら変に思われないか」と色々考えて、恥ずかしくなってしまう8年たちました(笑)。先生にメールしている方達が羨ましく思っていました！！今回の「新聞発行200号記念」を逃したら一生言えないような気がして勇気を振り絞りました。本当に先生や看護婦さん達に出会えた事によって、未熟だった私が少しずつ母親になれたと思います。いつもどんな些細なことでも耳を傾けてくださり不安をなくしてくださり本当に感謝しています。お陰で病気の事に関しては、見守る事を少し覚えた2人目の子育てが出来るようになったかなと思います。本当にありがとうござひます。お身体に気をつけて、いつまでも元気で桃と隼弥の先生でいてください！！そして、まだまだ親として至らない私の先生でもいてください。毎月の新聞楽しみに読んでいます！！。これからも、ずっと、ずっと続きますように！！ 青葉区 大野 由美

8年間の感謝の思い、しっかり伝わってきますよ。運命的な出会いという言葉が、全てを物語っています。勇気を振り絞ってのメール、本当にありがとう。今回をきっかけにして、遠慮なく何でもメールしてください。

こんばんは、いつも大変お世話になっております。アキナ・タカシ・ヨシキの母です。『クリニックニュース』が三月に200号になると言う事で、日頃、密かに思っている事を言っちゃいたいと思ひま～す。●初めて川村先生の所に行った時★看護師sanに症状を聞かれた事。普通は先生のところで症状を聞かれますよネ。★診察前に上半身を脱ぐ様と言われた事。普通は先生のところで服を捲り上げますよネ。なんだか変わっているところだな～と思ひました。●初診の次の日だったか後日に、婦長sanから電話が来た事はじめ、どこからの電話かピ～ンとこなくて…。普通は、『どうですか？』な～んで電話なんかきませんよネ。驚きました！！●スタッフの皆さんは、診察に来る子ども達の名前をちゃ～んと覚えてい事名前もそうですが、兄弟関係も把握している！さらに、親子関係も把握している！！『今日は○○chanだけなの～？』『××kunはいないの？』とか。スゴイ！！◎そこで疑問？川村先生自身は診察している子ども達、どのくらい把握しているのだから



うか？。正直、みんなのことは覚えられませんよネ～。●診察のとき先生に、診察以外の事を聞かれたら、やっぱり迷惑かしら？この間、首に巻いて診察していたとき、『どうしたんですか？』って聞きたかったけど、怒られたらどうしよう～って思って声を掛けずじまいでした。すいている時はいいかな～？●いろんな病気が集まってくところなのに、川村先生・スタッフの皆さんは具合が悪くならないのかな～？。かえって、免疫がつくのかな～？。いっつも、ちゃ～んといるよネ～(*^o^*)。●川村先生の事感じ方は人それぞれだと思います。先生の一言でイヤな先生に感じたり、イイ先生に感じたり。子どもの為を思っている事。叱られたときはヘコみましたが自分が悪かったことなので…。でも、ヨソへはいきませんヨ～。「子どもの為」もそうですが、「母」への思いも考えてくれていすよネ。●対応のよさ他院で診てもらったことになったとき、先方への連絡をして頂いた事。とても助かりました。お昼をまたいで点滴の時は、昼食を買ってきて貰っちゃいました。ありがとうござひました。最後に、川村先生・スタッフの皆さんは行くたびに「明るく・笑顔で・元気に」迎えてくれて、嬉しく思ひます！これからもよろしく願ひします。 宮城野区 加藤 真由美

密かに思っていること、ありがとう。疑問1、子ども達の把握。来る回数が多い子ども達は、ちゃんと把握していすよ。もちろんインパクトが強い親御さんの方は、もっと把握していす（笑）。先生は子ども達のこととなるときつい面があります。でも、首のこと聞いても大丈夫でしたよ。むち打ちとか思われるよりは、むしろ聞いてもらいたかった！！

こんにちは、富谷町の川田です。我が家が、かわむらこどもクリニックにお世話になってから、早いもので7年になります。長女の彩乃に始まり、次女の桜子、長男の健慎のかけつけとして、いつも子供達を助けて頂き、又、私たち親の不安を取り除いていただきありがとうござひます。幼稚園卒園前に、原因不明の熱に悩まされて先生の懸命の治療で、ゲッソリとやせ細ってしまったものの、何とかギリギリで卒園式に出られた彩乃は、今春で5年生になり、風邪をひくこともめっきり少なくなり、元気に音楽（マーチングバンド）に励んでいます。そんな彩乃の将来のいくつかの夢の中には、『小児科の先生、看護師』がありました。まちがいなく、川村先生やスタッフの皆さんの影響が大です。きっと、幼稚園卒園式の時の想いがあるんだと思ひます。彩乃とは対称的に、恥ずかしがりやの桜子は、今春、幼稚園（年中）入園です。人見知りやの桜子は、初めての外の社会（幼稚園）に馴染むまで、さぞ大変なことと心配ですが、一つ一つの壁を乗り越えられるように、親として見守りサポートしてあげたいと思ひます。そして、今年で2歳になる長男の健慎。2人のお姉ちゃんに可愛がられて、日々たくましく、ずる賢く育っています。どんな風に育っていくのが楽しみです。子供は、何人目でも病気になる心配になる、不安になる気持ちは変わりはありません。一人一人が、大切な子宝ですからね。病気になる時、どんな些細なことでも丁寧に教えてくださる川村先生、いつも笑顔でやさしく接して下さるスタッフの方々には、医師・看護師といった域を超えた診療を感じています。変な話ですが、病気になるても安心です。子供は病気を治してもらい、親は不安や心配を取り除いて癒してもらえる。そんな親を見て子供は安心する。子育てをする上で、かわむらこどもクリニックは、これからもずっとずっと欠かせない存在ですね。私達・親が安心して子育てできるのは、心から信頼でき・頼れる病院に恵まれたからです。その安心は、川村先生はじめスタッフの方々の私生活が犠牲になっていることと思ひます。『全ては患者の為に、その親の為に』、感謝・感謝の限りです。ありがとうござひます。これからも、子供達ではなく、我が家の掛かりつけ医として宜しく願ひいたします。 富谷町 川田 ひろみ

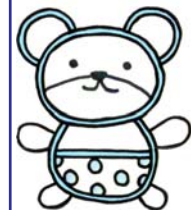


コメントがしようのない素晴らしいメールです。自分が言いたいこと、クリニックが目指していることを、しっかり書いていただきました。本当に、ありがとう。遠くから通うのは大変ですが、気を付けて通い続けてください。我が家の掛かり付け、本当に嬉しい言葉です。

クリニックNEWS200号記念おめでとうござひます。ただえええ、いつもお忙しい診療の合間を縫って、そしておそらく貴重な睡眠時間を削りながら、一つ一つ作り続けてこられた先生の熱い想いが伝わってくる、クリニックNEWS200号！！表彰状を差し上げたいくらい、素晴らしい功績だと思います。初めてこの新聞を頂いて読んだ時に、こんなに患者とその家族のことを思ってくれる先生がいるんだ！！と深く感激したのを覚えていす。元気に過ごせて、しばらく先生の所へ伺ってないと、「そういえば、最近かわむら先生のところに行っていないね～」と親子でかわむら先生の所へ行きたくなくなってしまいます。もちろん健康がいちばんなのですが…何かほっとできる安心をもらえる親と子にとって、心の基地のような存在のクリニックで、これからもあり続けて欲しいなと思ひています。クリニックNEWSも、又、楽しみにしています。 泉区 木方 恵美

表彰状を差し上げたいくらいという言葉、NEWSを続けてきてよかったと感じています。多くの患者さん達が当院を支え、多くの読者が新聞を支えているのです。こんな言葉を頂く限り、これからもずっと発行を続けたいと思ひました。ありがとう。

先生、ご無沙汰しております。クリニックニュース、スゴいです・冊子になったらぜひ購入したいです！クリニックニュースを読んでいると、沢山のなるほど！があり、知らないお母さんたちに教えてあげたい！と思うことがよくありました。以前、こんなことがありました。2才のお子さんがあるママさんと話す機会があつて、小児科の話になり、先生の100号のクリニックニュース冊子をみせたり、本を貸したり、すごくいいんだよ！！という話をしました。その方は、遠くて通えないと残念がってホームページをみるよ！！とってました。それがきっかけで仲良くなったんです。海外へ転勤してしまひましたが、ホーム



ページをみてくれていると思う私も嬉しい気持ちでいっぱいです。我が家は、長男が学校に上がり、病院にかかることもかなり減りました。次男・長女は、ちょっとした症状のときは様子をみたりが多く、そうできるのも先生から学んだことが多く、心配性の自分がどっしりと構えていられるのも先生・そして病院のおかげです。熱があったり、調子が悪い時、食べようとしないうちを心配する夫・その横で大丈夫だあ！大人だって熱ある時にカツ丼食べたいとは思わないでしょ！！。先生が私に話してくれて、あっ！ホントだ。と教えてもらったことです。その時の私を安心させてくれました。今では、まるで私の言葉のように肝っ玉かあちゃん風に使ってます。たくさん、あまりにもたくさん感謝の言葉・話があって！！学校の生活が中心になってくると、生活時間がそれぞれになってきて、ついつい近くの内科小児科へ行き、先生のところまでが今までは少しの距離だったのに遠く感じてしまう自分です。他の病院へ行けば行くほど、先生のところへ行くのが一番なのに、と思うことが多々あります。今まで病院へ通い、先生やスタッフのみなさんから学んだことは三人の母となり、子育てをするうえで、しっかりと土台になっていて、今日の母としての私があると切り切れます。年末に川崎病になり先生の所から真っすぐ病院へ行ったこと・飴を飲み込み診察時間外に診ていただいたこと・薬局にいる間に症状が変わり私服の先生に診ていただいたこと・婦長さんから貰った電話（驚きと共に感激しました）・急な時も、不安でいっぱいの時も、どんな時でも、いつも変わらずに優しく・明るく・笑顔で対応してくれるスタッフのみなさん。不安な気持ちを察して必ず声を掛けてくれるスタッフのみなさん。そのたびに何度も安心を貰い、頑張る元気をもらいました！いろいろな思い出があります。先生の話聞いて、何度ほっとして涙がでたらう・スタッフのかた達の笑顔や話に安心し、どれだけ救われたらう・変な話、実家が県外の自分にとって連れてくるだけで安心できる場所となっていました。分からないことは先生のところ。病気だけじゃなく、成長に関しても不安なこと・今思うと私は馬鹿だなあとありますが、男の子のオシッコの仕方まで聞いてました。あの当時は何もかも、どうしたらいいか分からず、頼れるのは病院だけでした。皮膚科に言っても何だかよく分からない説明に不安で、そのままクリニックに行ったこともありました。歯医者も耳鼻科も全部先生に聞いて行った私です。子供たちは、先生は僕が小さい時から知ってるんだよね！と僕の先生といった感覚です。新型インフルで休日当番の先生のところへ1年半以上ぶりに少し気まずい！？思いで行きました。そんな気持ちは余計でした。スタッフの方の久しぶり！というような（私にはそう感じて）笑顔・声掛け。先生との会話。なんだか母校に帰って来たような感覚で、やっぱりいいなあ・クリニックが子育ての基盤ともいうべき、この病院に出会ったことの素晴らしさを実感した日でした。子供たちは元気いっぱいに、毎日を過ごしています。また、いきなりクリニックにお世話になりに行くかもしれません。転勤がいつになるかわからない我が家ですが、心はクリニックから離れません！！200号！本当におめでとうございます！忙しい先生の毎日で、このように続けることは凄すぎることです！待っている・楽しみにしているママさんたちも沢山いることと思います。病院にかからないことが一番ですが、久々に貰った私は感激でした。今回、200号の報告をいただいたこと嬉しかったです。ありがとうございます！先生・スタッフの皆さん・お体を壊されませんように、お過ごしください。クリニック大好きです！これからもよろしくお祈りします。 宮城野区 今野 佳世子



なるほど。いろいろな思い出話があるものですね。誰でも近くは便利で、近い病院に通うのは仕方ないことです。子どもが大きくなって通う機会が少なくなった分、当院への思いが強くなっているようです。母校にでも帰って来たような感覚を持ってもらえること自体嬉しいことです。またこのような思いを届けてくれたことが、素晴らしいことでは？。いつもお世話になっております。佐々木愛海と昂の母です。この度はクリニックニュース200号おめでとうございませう(^◇^)/早いもので私達がクリニックに通うようになって10年経ちました。この10年の間に何度お世話になったことでしょうか。普段から感謝は尽きません。昂が帰省先で発作を起こし、入院したことがありました。仙台とは異なる医療体制にショックを受け、不安な気持ちで発作から入院に至る経緯を先生にメールしました。私は親として不注意な点があったと自分を責めていました。そんな私に先生は優しくいろいろ教えて下さいました。私は遠く離れた場所で落ち込んでいても、不安を解消してもらえたことが嬉しかったです。本当にありがとうございます。そして…いつも笑顔で、きめ細かく対応して下さいるスタッフの皆さん！ありがとうございます！(≧▽≦)/~300号も楽しみにしています(o^_^)b。 宮城野区 佐々木 直美

診察をしている時だけが、かかりつけではありません。診察の場面以外、院内報、『お母さんクラブ』、そしてかかりつけ患者さんのメール、お守りも、すべてかかりつけ患者さんへの対応です。困っている親御さんに対応するも、当院の理念「お母さんの不安・心配の解消」のあらわれです。

祝！200号おめでとうございませう☆*かわむらこどもクリニックの皆さまとの出会いは、8年前になります。今は生意気ばかりの和真の2ヶ月健診でした。その後泉区に引越し、片道20～分かかるのが難点で家族には近所の病院にしたら？と言われてますが、いままで8年を考えると、やっぱり最終的にかわむら先生の所に戻ってました。遠いので、むやみに病院に行かなくなったし（笑）、こどもが子供のうちはこのままお世話になりたいと思います。そういえば、クリニック新聞があるのって、かわ



むらこどもクリニックだけかも。新聞で、色々学ばせて頂いています。いつだったかの新聞では、虐待墮胎など衝撃的なことが載ってる時がありましたね。その新聞はしばらく読み続け、子供たちのいることの意味を夫婦で考えました。いつだったかは、先生の旅行記。お腹を壊したことが載ってました。先生も私たちと一緒になんだと、なぜか安心したのを憶えています。激務の中執筆されるのは大変でしょうが、お体に気をつけて続けていって下さい。ファンとして楽しみにしています。長々となりました、これからもよろしくお祈り致します。 泉区 関谷 理恵

遠くに引越しても通ってくれるのはありがたいことです。無闇に行かなくなったのもいいことかも（笑）。新聞の意味をよく理解していますね。記事は読み流すのでは無く、そのことをきっかけに何かを考えてもらうことが大切と思っています。特にご夫婦や家庭で考えてもらうことは、新聞の大きな意味だと思っています。

こんばんは。いつもお世話になっている武田 大輝・遥輝の双子とその弟樹（いつき）の母です。クリニックニュース200号おめでとうございませう。そしてお疲れ様です。私達が毎月当たり前のように頂いているクリニックニュースですが、先生のとても忙しい時間の中で毎月、200号になるまで書いてくださった先生にありがとうございますという気持ちでいっぱいです。私達親子が先生と出会ったのは、双子が早産の未熟児で生まれ、出産先のNICUの先生に「この子達は13歳になるまでは私が面倒を見ます！」と言って頂いたにも関わらず、産後4ヶ月で「転勤になってしまいました・・・県立こども病院を紹介します。」と言われ・・・どうしようと心配になっている時に「一番近くの小児科は？」と聞かれて、「かわむらこどもクリニックです。」と答えたら、「だったら私も安心しました！かわむら先生に全てお任せしましませう！」と紹介状を書いて頂いたのが先生にお世話になるきっかけでした。それから私達親子は引越した今でも何かあればすぐにかわむら先生にお世話になっています。点滴を受けた翌日には婦長さんから電話を頂いたり、樹が入院したときには先生がわざわざ入院先にまで来てくださったり（入れ違いで退院してしまい申し訳なかったです）私が心配な時には泌尿器科や心臓の専門の先生に紹介状を書いてくださったり・・・どれだけお世話になっているかわかりませう。子供達も私自身もかわむら先生に診てもらい、スタッフの皆さんの笑顔で安心をする為にクリニックへ行っているのかもしれない。子供達はすっかり慣れ過ぎて遊びに行く感覚になっていますが・・・くれぐれもお体は大事になさって、クリニックもクリニックニュースも続けてください。これからもまだまだお世話になるはずなので親子共々、先生もスタッフの皆さんも宜しくお祈りします。 宮城野区 武田 智美



一番近くの小児科の答えで、「心配ですね」と言われなくて安心しました（笑）。婦長が電話したり、入院先を訪れること等も、全ては「お母さんの不安・心配の解消」です。クリニックに遊びに来ることは感心しませんが、小児科に行く時に、遊び感覚というのは必要なことかも知れませう。

千葉泉稀と大翔の母です。川村先生クリニックニュース200号おめでとうございませう。上の子がお世話になり始めてから（と言っても職業柄、川村先生の本には母親になる前から知り合っていました）7年になります。その間休日診療等にお世話になるような急を要する事は無く、子どもたちが体調崩せばとにかく「川村先生！」とクリニックに駆け込んでいます。子どもたちの事をよくわかって下さっている川村先生、スタッフの皆さんの所に行けば、私たち親子は安心して診察を受けられるのです。そして、安心して診察を受けた後は、クリニックニュースのおまけ付き、というのも魅力の一つです。非常に勉強になる話題、川村先生のリフレッシュ旅行の楽しい話題、そして去年の冬に起こったような悲しい出来事等の考えさせられる話題と、常に情報満載。こんなに濃い内容を先生はいったいいつ作られているのか、不思議でなりません。そしてこのクリニックニュース、月始めに行けばいただけますが、時期を逃すと手に入らないのでネットでチェックしたり、同じくクリニックをかかりつけにしている妹と情報交換したりしています。また、子どもたちの診察と同時にいただく先生のプチ講話やクリニックニュースで得た情報は同じ年代の子を持つ友だちに教えたり、仕事で使わせていただいたりしています。子どもたちは先生に診ていただいて体が楽になっていきます。私はそれで安心すると同時にクリニックで+αをいただいて帰ってくるのです。私にとってもう一つ嬉しい事は、長年定期購読している「健」に川村先生が時々登場してくることです。川村先生が書いた所を見つけ、読んでいるときは、私の鼻は自慢気にかなり高くなっていると思います。内容もとてもわかりやすく、いろいろ活用させていただいています。クリニックの事、執筆、学会や講演会とかなりお忙しいようです。どうぞお体に気を付けられ、私たち母親に川村先生のパワーを分け与えてください。これからもどうぞよろしくお祈りします！ 泉区 千葉 理子

職業上、新聞の記事には大きな興味を持っているのでしょう。新聞が読めない時にネットでチェックするなんかは愛読者の鏡です。受診の時に+αを貰ってくるということ、開業以来の大きな目的です。貰えてるということを知って安心しました。「健」の愛読者でもあるんですね。ご存知ない方に一言、「健」は先生方が読んでいる雑誌のひとつです。

クリニックニュース200号おめでとうございませう。我が家でクリニックにお世話になり始め、もうすぐ5年になります。実家は県外で、近所に子持ちの友人がいなかった私にとって、かわむらこどもクリニックは育児の頼みの綱でした。初めて受診したのは、母子手帳別冊の小児科のリストを見て、自宅から一番近い小児科だからでした。それは本当に幸運な事だったと思います。はじめの頃は、育児は不安ばかりで、楽しむ余裕もありませんでした。こんなに近くのクリニックへ行くにも、本に書いてあるとおりの大きな荷物（着替え一式・バスタオル・母乳なのに念の為、哺乳ビン、ミルク、お湯・・・）を持って受診してました(@_@;)今思うと、些細な事で受診していたと思います。調子が悪いから受診したはずなのに、心結はクリニックへ行くとほとんど元気に遊んでいて、私の方が元気をもらって帰宅する様でした。先生やス



スタッフの方々に母親としても育てていただいたと思います。お産も大変だったこともあり、子供は一人で十分と思っていた私が、また子供を望めるようにもなりました。去年、心愛が生まれ、忙しい中でも日々楽しさを感じているところです。心結も待ち望んでいた妹の誕生にもすごいかわいがりようです。心愛の笑顔を見る心結の笑顔は最高です(*^_^*)二人とも健康に育ってくれればと願っています。クリニックニュースは、私の愛読書になっています。お忙しい中で大変な事だと思いますが、これからも楽しみにしています！かわむらこどもクリニックには、これからは二人分お世話になります。その為にも、先生、スタッフの皆様の御健康をお祈り(?)お願い致します。 青葉区 千葉 恵美

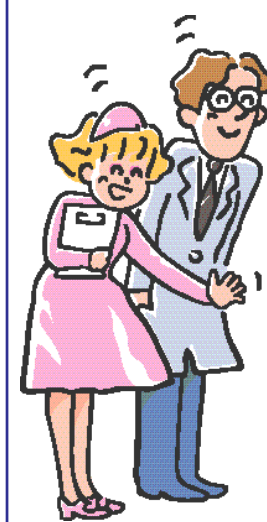
最初のお子さんの育児は初めてのことで、何から何まで不安でしたよね。当然のことながら、当たり前です。でも、子育てで目一杯の時には、何も見えていないのかも知れません。そんなことがクリニックに通うようになって、少しでも軽くなればと思っています。親御さんも子どもと一緒に成長していくのです。何より楽しさを感じることは、素晴らしいことです。

クリニックニュースが200号を迎えるとのこと、おめでとうございます!先生のクリニックニュースは、医療の事から先生の近況、患者さんのコメントなど、話題満載で、いつも楽しみにしています!本当に沢山の情報を、毎月ありがとうございます。沢山の親御さんが、私と同じようにファイルしていると思います。お忙しいとは思いますが、これからも是非是非、続けて下さいね!そして早く直接もらえる環境に行けるといいな~とも、思ってます♪こちらの近況ですが、真奈穂は5歳年中さんで、プールのお陰か元氣そのもの!流行に乗ることなく、インフルもかからず、ぴんぴんしてます。弟嘉音哉11カ月は、水曜日から高熱続き…昨日小児科へ行くと扁桃腺炎と診断され、只今抗生物質を飲んで様子見てます~。二人とも元気な方で、小児科へ行く機会は少なく…実は、嘉音哉が40度もの熱が出た時、お母さんクラブで頂いた「突発性発疹」の紙を読みました。その次に、「解熱剤の使用量」の紙を。ナント、真奈穂が水疱瘡で先生から、アルピニー100mgを処方して頂いたのを、未だ持ってたんです(*_*; 冷蔵庫にお守りのように置いていた、たかまつ薬局の紙袋。念の為深夜だったので、京都の救急病院に電話して、平成18年処方のことって言ったら「使わない方が…」と。それだけ、子供たちは、座薬のお世話になる事もなかったんです。なので、とっさの時は、お母さんクラブで頂いた、「ひきつけ、熱性けいれん」など、色々な用紙が私の病気対応時のバイブルになっています!次回のお母さんクラブの、ワクチンのお話も喉から手が出るほど聞きたい話題です。早く仙台へ帰らなくては…な心境ですが、便利な世の中、HPを通じて、いつも身近に感じております。離れてはおりますが、二人とも、いつも川村先生にお世話になっている心境です。これからも、どうぞ宜しくお願い致します! 京都市 早坂 由美



京都からのメールありがとうございます。そして、転居後の子育てに仙台での経験や資料が役に経っていると聞いて、とても嬉しく思いました。早く仙台へ帰りたいたとは思いますが、かかりつけのお子さんは、どこへいってもかかりつけですからご安心を!。仙台に帰ってくるの、皆で待ってま~す。

クリニックニュース200号おめでとうございます。初めて、先生に診て頂いてから、七海も2才になりました。小さく生まれてから、なかなか体重が増えなくて、薬をもつかむ思いで、クリニックに行ったことを思い出します。先生の助言を受けて、やっとミルクを飲んでくれて、その後は順調に育ってくれました。心細くしていた私を、先生やスタッフの方々に勇気づけて頂きました。ありがとうございました。これからも、どうぞ皆さんお元気で、私達を力付けて下さい! 青葉区 松田 昌子



何度も書きますが、今思うとあの頃って感じるがあります。薬をもつかむ思いに、対応するのが小児科の役割です。お母さんがしっかりとすることが赤ちゃんの不安を無くし、赤ちゃんが安心することは健康につながります。親子ともども健康、それが一番!

200号おめでとうございます。矢古宇裕介&裕月です。入園してから裕介が風邪引きやすくなり、そして兄から菌をもらい、6ヶ月の裕月も頻繁にお世話になってます。裕介は『かわむら先生ごっこ』がブームらしく、お風呂あがり 必ず胸と背中をぺたぺた、喉あ~ん…をしています。いつも私の話に耳を傾けて、そしてメールも必ず返信していただきありがとうございます。これからも母子共によろしく願います。 青葉区 矢古宇 里美

今回のメールにもありましたが、一部のお子さんでは、かわむらこどもクリニックごっこがマイブームのようです。誰が先生になるかで、喧嘩するってこともあると聞きます。また、先生の口癖をしっかりと覚えて診察する子もいるようです。いつまでも、こども達のごっこ遊びのクリニックでいられるようにと思っています。

たくさんの寄稿、本当にありがとうございました。

子どもたちの展覧会

お母さん方の声掛けもあって多くの作品が集まりました。みんな、上手に書いていました。本当にありがとうございました。またの機会には、是非お願いします。



あいはら りく くん 9才



きほう ゆいか ちゃん 6才

**本当にありがとう!!。
みんな!、サンキュー!!。**



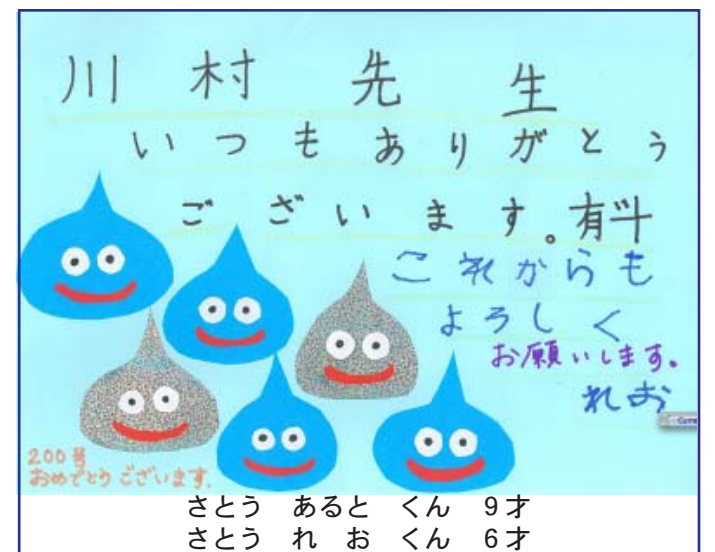
さいとう ゆうか ちゃん 5才



うめざわ あやな ちゃん 8才



こまつだ みゆ ちゃん 5才



さとう あると くん 9才
さとう れお くん 6才



さとう けいしょう くん 6才



たるかわ けい ちゃん 3才

子どもたちの展覧会



たるかわ ゆう ちゃん 6才

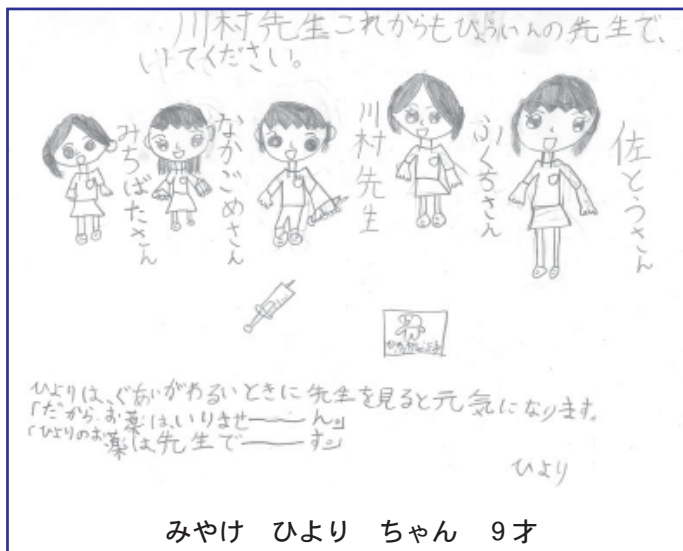
みんな あこいね!!。
じょうおだね! あいありがとう。



にいぜき れん くん 6才



みやけ あすか ちゃん 6才



みやけ ひより ちゃん 9才

200号お祝いの寄稿

小児科院内報の草分け『カンガルー通信』を発行しているしまだ小児科の島田事務長さんと学生実習をした竹内先生からお祝いの言葉を頂きました。ありがとうございました。

200号おめでとうございます

熊本県上天草市 しまだ小児科 事務長 島田 等

『かわむらこどもクリニックNEWS』が創刊200号を迎える2010年3月には、私共の院内報『かんがるー通信』は249号となる予定です。「エヘン」。ちょっと威張りたいところですが、私の249号は馬齢を重ねて来たようなもの。

川村先生の200号は本当にすごい、と思います。本当に長い長いおつきあいになりました。毎月隔々まで目を通す愛読者の一人です。熊本県の上天草市にある小児科クリニックの事務長で、毎月1回発行している院内報の編集もしています。たぶん「超」がつくほどお忙しい中、ホームページの運営、そして「読者の広場」で一部公開されているような、お母さん方とのメールのやり取りもされた上、院内報の編集をほとんど、ご自身でされているからです。巻頭の先生ご自身の書かれるお話は、病気に対する説明やクリニックの方針、世の出来事に対する怒りや喜び、プライベートな休日のお話まで、ためになりながら楽しめます。また特徴である「読者の広場」は、私共同業者には考えさせられるヒントでいっぱいです。

かわむらこどもクリニックのお母さん方は、とても幸せなですよ。皆さん、そのことを分かっておられるから患者さんも多いんですね。

「継続は力なり」は100号記念誌に書かれた言葉ですが、創刊号からまったく変わらぬ安心の紙面に、「マンネリも技なり」という言葉を贈ります。

院内報創刊200号によせて

飯田市立病院 小児科 竹内 勇介（自治医科大学卒）

創刊200号おめでとうございます！私が、かわむらこどもクリニックで実習をさせて頂きましたのは6年前のことです。私は、こどもが好きで小児科には興味がありましたが、私の出身大学では地域医療が専門ですので小児科になることは最初から半ば諦めていました。当時、まだ私は学生で病棟実習をしはじめたばかりの何も分からない状態でした。ある日、何気なくインターネットで、かわむらこどもクリニックのホームページを見つけましたのが最初の出会いです。最初にホームページを見たときに、充実した内容の院内報や、先生の病気に対する分かりやすい説明をみて、何てこの先生は、お子さんや、お母さんに対する優しく熱い想いを持った先生なんだろう！と感銘したのを覚えています。学生実習をしているということを知り、どんな先生でどういうクリニックなんだろう、と興味津々で早速実習を申し込みました。しかし、見ず知らずの学生を受け入れてくれるか、しかも、本当に小児科になるのか分からない学生を快く受け入れて下さるのか、不安いっぱい、クリニックの前を何度も行ったり来たりしていたのを覚えています。しかし、そんな心配は一瞬で吹き飛びました。かわむらこどもクリニックは、川村先生はじめ、スタッフの皆さんがとても親切で明るく、診療中もおかあさんもこどもたちも生き生きとやりとりをされており、自分も将来、クリニックでされている診療ができればいいなあと思っていました。実習中、ガチガチに緊張しきった私に、あるお母さんが笑顔で「赤ちゃん、抱っこしてみます？」と声をかけていただいたことが非常に嬉しかったです。恥ずかしながら、私は赤ちゃんをこのときまで抱っこしたことがありませんでした。何気ないことでも、私にとってこの経験は、とても新鮮で大切な思い出となりました。

その後、小児科に進むには多くの壁がありましたが、かわむらこどもクリニックでの経験が、自分は小児科医になる！という強い意思を生んでくれたと思っています。

現在、私は小児科医として勤務しています。まだ卒業してで、患者さんやお母さんが本当に満足してくれたのか、と思うことがあります。医師になると、学生の頃と比べ、他の先生の診療をみて勉強するという機会がめっきりなくなりますので、学生時代に出会った先生や関わった方々の影響が、自分の診療の姿勢に大きな影響を与えていると感じています。私は、早い時期にかわむらこどもクリニックでの実習の機会に恵まれたので、川村先生や、スタッフの皆さんの診療の様子ややりとりが、現在の自分の診療の基盤になっています。子どもの体調は、刻々と状況が変化し、ご家族の心配も自分のこと以上かと思えます。ご家族の心配を少しでも取り除けるよう、新しい病気に対する情報に常に目を向けて、かわむらこどもクリニックの院内報のように、それを分かりやすく発信して下さる川村先生の姿勢は非常に勉強になります。

また、私の勤務する病院では、地元の大学からも学生さんが実習に頻りに来ています。将来小児科に進んでくれるかは分かりませんが、私も、一人ひとりの学生さんに対して、川村先生のような情熱のある先生がこの病院にもいた、ということを残してくれるように、自分自身も日々勉強し、川村先生を目標に日々精進しています。

かわむらこどもクリニックでの実習は、たった1泊2日でしたが、私の人生にとって本当に大切な経験でした。私の住んでいる地域も小児科医不足が深刻ですが、自分と同じ小児医療に携わる仲間が増えるよう、また、こどもたちが毎日笑顔でいきいきと生活できるよう、微力ながら努めていきたいと思っています。最後に、実習させて頂きましてありがとうございました！今後も院内報を楽しみにしています。

スタッフから

クリニックNEWS” 200号おめでとう
ございます。お忙しい先生なのに月初めには必ず出来上がる新聞、頭が下がります。旬の話題満載な記事は、患者さんは勿論だと思いますが、私達スタッフも患者さんとのコミュニケーションに役立つものばかりです。時には新聞を読んでいただき、わからないことがあったときに質問を受けるほうが、納得のいく答えがみつかりやすいというときも少なくありません。150号をむかえたのが平成18年の1月、あれから4年毎月毎月私自身も沢山の知識を勉強させていただいています。いつも新しいことへのチャレンジ、川村先生は凄いなあ〜と感心してばかりです。真似をしたいなあと思っても、なかなか前に進めない自分…そんな姿勢が仕事にも出ていないかが心配です。クリニックNEWS二面の読者の広場、心に沁みるものばかりです。人はいろいろな思いで、クリニックを訪れていることでしょう。かわむらこどもクリニックの開業理念「母親の不安、心配解消」に基づき、私も患者さんが笑顔で帰宅できる様な看護をしたいと思います。これから250号300号と、節目節目に同じ反省をしない様に自分を磨き鍛えて、いい意味で変わってないねと言われる様になりたいです。川村先生には無理し過ぎず、これからも患者さんのために素晴らしい新聞を発行して欲しいと思います。200号バンザイ！！バンザイ！！



看護師長 中米 由美子

記念すべき200号！おめでとうございます。100号、150号を経て本当に素晴らしいことです！私はスタッフでありながら先生の続けられているクリニックニュースからいろいろと学んでいます。最近の医学から社会的なことまで。そして記念号。100号の時には結婚したばかりで、こちらにお世話になって4ヶ月が経った所でした。記念号にあててのお母さん方の言葉を読み、子育ての大変さ、そしてこのクリニックがどれだけ支えになっているか、新米の私には記事全てが新鮮でした。150号の時には初めての子育て中だったので、お母さん方の言葉一つ一つが心に染みまします。そして今回200号。時の流れを感じます。先生とお母さん方のパワーで作られたクリニックニュースは、クリニックの宝です！

看護スタッフ 佐藤 陽子

200号おめでとうございます！毎月私もクリニックNEWSを楽しみにしているファンのひとりです(≧▽≦)私が、かわむらこどもクリニックで働き始めてもうすぐ10年がたちます。考えてみると本当にあっという間の月日が流れたんだなとしみじみ感じています。その間も先生は毎月毎月新聞を出していて本当に頭が下がる思いです。入ったばかりの頃は何にも分からず看護婦さんや先輩に助けてもらってばかりの私にとってクリニックNEWSは教科書みたいなものでした。病気の事や最新の出来事が載っていて何度も読み返しては勉強していた頃が懐かしいです。私も先生を見習って何かひとつの事を続けていきたいなと改めて感じたので、これから探してみたいと思います！

事務スタッフ 福地 あさか

200号おめでとうございます☆ここまで発行されてきた事、改めて、すごいなあと思ってしまいました。院長は、病院の仕事以外にも忙しいので、毎月記事を作っている事、驚きです！院内報には、病気に関係する情報だけではなく、先生の旅行話、また社会情勢なども踏まえて載っているので、とても読みごたえのある新聞だと思います。また、患者サンから寄せられる相談メールでは、お母さん達が、子供を大切に思う気持ちが強く伝わってきます。院長やスタッフへの感謝のメールを頂く事もあり、読んでると、とても温かい気持ちになります。お母さん達との信頼関係が日々出来ていくんだなと感じました。また、患者サンから、新聞ありますか？と言われると、楽しみにしてくれているという事を実感します。私自身にとっても、学べる院内報なので、これからも楽しみにしています。

事務スタッフ 道端 千尋

院長からスタッフへ

皆から200号おめでとうという言葉を受けたので、院長からは200号ありがとうの言葉を返します。今回頂いた患者さんのメールの中にも、院長の厳しさが、スタッフによって薄められ和らげられていると書かれています。正直院長はきついついところがあって(多くのお母さんが指摘：笑)、お母さんを凹ませることがあります。「全てはこども達のため」だとしても、お母さんは必ずしも理解できない時もあるでしょう。。そんな時の皆のフォローが多くのお母さん達を救っているのでしょう。インフルエンザワクチンの休日返上、木曜日の午後のお母さんクラブ、その他様々なことで、スタッフ誰も不平不満をいわず、こども達とお母さん達のために働いてくれています。クリニックは院長一人では、「お母さんの不安・心配の解消」理念に到達することは不可能です。皆の支えがあって、むしろ皆に支えられて、理念の花が開いているのです。この院内報を続けられるのも皆のお陰です。ひとつの区切りとして、この場を借りて感謝したいと思います。

読者の広場

先月は9通のメールを頂きました。結構プライベートに関わるものが多かったので1通だけ紹介します。青葉区の高倉さんからのメールです。「こんにちは。高倉灯、碧の母です。昨日も診察ありがとうございました。碧は熱が37度くらいで、鼻垂れながらも元気に遊んでいます。私は頂いた薬と先生のパワー(?)のおかげで辛さはなくなりました。そして…灯はさつき退院してきました。昨日の昼から食欲が出てきてご飯を食べ、その後は歩いたり笑ったり元気になってきました。今日の午前のお診の時に「おうちに帰りたい」とシクシク泣いていたら、先生が「じゃあ、帰ろうか」と退院許可がでました。シクシクしてなかつたら今晚も入院していたかも…です。今週末が来週頭にかわむらクリニックに行く予定です。入院中に同室のママさん達とがかりつけの小児科の話になって、私が「かわむらクリニック」と言ったら「え〜いいな〜、いつもホームページ見てるんだけど、すごいことになるよね」って言うママさんがいました。「いいでしょう」とちょっと自慢しながら、宣伝しておきました。今回も本当にお世話になりました。ありがとうございました。」
当院でもなるべく入院しないように、外来で毎日点滴をしても頑張っているつもりです。しかし経過や症状でやむなく入院をしなければならぬこともあります。本人だけでなく、家族にとっても入院というのは、いろいろな意味で大変なことです。入院で大変なのに、小児科医の話題で、当院を宣伝してくれてありがとうございました。でもちょっと自慢できたのは、優越感としてこちらも嬉しいことです。200号の発行に合わせて、こんなメールを頂くことはあり



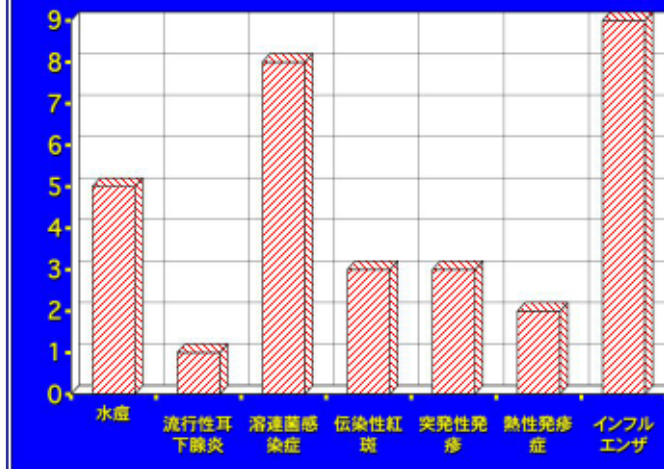
はしの ゆうき ちゃん 5才

がたく、クリニックは本当にいろいろな人に支えられているということを感じました。

『お母さんクラブ』の常連である梅沢由美さんから頂いたイラストを紹介します。「いつも若い川村先生」は、疑問ですが、絵だけでなくコメントにもスタッフの特徴がよくとらえられています。もうひとつ紹介します。200号記念と3月に合わせてお雛様を、はしのゆうきちゃん(5才)が折り紙で作ってくれました。細かいところは見えませんが、お内裏様の院長は注射器を持ち「いたくないよ」と、お雛様婦長は「すぐなおるよ」と言っています。また残りのスタッフは三人官女で控えています。かわむらこどもクリニックのマークまでついていて、大きさ58cmX38cmの大作で、クリニックのためだけに作ってくれました。本当にありがとう！！



2月の感染症の集計



わずかに水痘が増えている以外には、特に流行している病気はありません。インフルエンザは、初旬にはみられましたが、その後は無くなりました。季節型も無く、下旬にB型が1例だけありました。インフルエンザと似たような症状のRSウイルス感染症がみられています。グラフには示していませんが、嘔吐下痢症が多くみられました。

細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会の署名 ご協力ありがとうございました

お陰様で200人をこえる署名を集めることができました。先月号でも紹介しましたが、新しいワクチンが登場しています。「全てのこども達に全てのワクチンを」という合い言葉で、取り組んでいくつもりです。さらなる、ご協力をお願いします。

200号の新聞配付版は2ページです。完全版は12ページです。完全版を希望の方は受付まで！！

編集後記

お陰様で無事200号を発行することができました。100号は8ページ、150号は10ページ、そして200号は12ページにもなりました。100号に「継続は力なり」と書きましたが、正直200号まで辿り着けるかどうか不安でした。多くの理解ある方々の支え、本当にありがとうございました。



麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『小学校入学前にも麻しん風しん混合ワクチンを』-12-
Ⅲ期(中学1年生相当)、Ⅳ期(高校3年生相当)も忘れずに！